

令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について

1. 令和6年度 安芸高田市の生徒指導上の諸課題調査について

<小学校>

	安芸高田市	広島県	全国
暴力行為〔件〕 (1,000人当たりの発生件数)	13.1	19.2	13.8
いじめ〔件〕 (1,000人当たりの認知件数)	6.5	42.0	101.9
不登校〔人〕 (1,000人当たりの不登校児童数)	29.0	25.4	23.0

<中学校>

	安芸高田市	広島県	全国
暴力行為〔件〕 (1,000人当たりの発生件数)	5.1	21.0	12.6
いじめ〔件〕 (1,000人当たりの認知件数)	5.1	30.4	42.6
不登校〔人〕 (1,000人当たりの不登校生徒数)	47.5	68.5	67.9

2. 取組状況等について

- ・暴力行為については件数が小学校で増加した。自身の感情の表出方法が分からず、衝動的に行動し暴力を振うというケースや認識のずれや勘違いから暴力をふるうケースが多くあった。特別支援教育の視点からの指導・支援方法を探る必要がある。
- ・いじめの認知については、日常的な児童生徒の観察、定期的な面談、児童保護者アンケートに加え「こころのポスト」を活用し、いじめの早期発見に努めている。いじめの認知件数の大小に限らず、いじめに気付く教職員の感度を高められるよう、児童生徒理解を深めたり校内での効果的な情報共有の在り方などについて研修を進めたりしていく。
- ・不登校については、中学校では一昨年度より減少した。減少の要因の一つとして、SSR等を設置したことによる生徒の居場所の確保である。今後も、生徒の状況に応じた環境の設定について工夫を重ねていく。
また、各校において、家庭、関係機関との情報共有を密に行うとともに、校内委員会を定期的に開催し、児童生徒の実態に応じた支援を確認し、実効性のある取組を推進していく。
児童生徒にとって登校したくなる学級、学校づくりが不登校の未然防止であるという意識を持ち、各校において具体的な取組を進めていく。